

# 第2回演奏会 リレーション'70

Flute 野口龍, 永井由比 Violin 三瀬俊吾 Piano 大須賀かおり

2013. 9. 8 (日)

14:00 開演

東京オペラシティ・リサイタルホール

TOKYO OPERA CITY RECITAL HALL

助成：公共財団法人 朝日新聞文化財団

協力：ジバングプロダクツ株式会社 後援：日本現代音楽協会



## ご挨拶

「室内楽 '70」(Fl. 野口龍、Vn. 植木三郎、Pf. 若杉弘、後に松谷翠)は、1970年から1979年まで毎年1回ずつ計10回の演奏会を行いました。当時を代表する邦人作曲家へ毎回2作品ずつ、計20作品の新作を委嘱しました。この活動は、邦人作品の普及と発展に貢献しただけでなく、日本における現代音楽のアンサンブルグループの先駆的な役割も果たしました。

2012年、「リレーション '70」は「室内楽 '70」の全委嘱作品の再演を目的に結成致しました。全4回シリーズの演奏会は、今回が第2回となります。引き続き第3回(2014年6月27日)第4回(2015年3月予定)と続きます。また、「室内楽 '70」と同様に「リレーション '70」も毎回の演奏会で新作の委嘱を行います。今回は幅広く活動されている新進気鋭の江原大介氏へ委嘱致しました。第3回の演奏会では渡辺俊哉氏への委嘱を予定しており、柴田南雄作品の演奏に際しては有馬純寿氏の協力のもと、エレクトロニクスを伴う演奏を予定しております。

「リレーション '70」の活動も未来へ受け継がれていくことを、メンバー一同願っております。

リレーション '70 一同

野口龍

永井由比

三瀬俊吾

大須賀かおり

## - Program -

三善 晃 / オマーージュ I (Fl. 野口龍)

末吉保雄 / コレスポンダンスⅢ・Ⅳ…フルート、ヴァイオリンとピアノのために (Fl. 野口龍)

池辺晋一郎 / トリヴァランス I (Fl. 永井由比)

江原大介 / ハウリング (委嘱新作) (Fl. 永井由比)

- 休憩 -

一柳慧 / トライクローム (Fl. 永井由比 Tam-tam. 野口龍)

肥後一郎 / フルートとヴァイオリンとピアノのためのテルツェット (Fl. 永井由比)

小倉 朗 / フリュート・ヴァイオリン・ピアノのためのコンポジション (Fl. 野口龍)

# - Program Note -

## 三善晃 オマーージュ I

1970年、「室内楽'70」の発足に当って三善晃さんから贈っていただいた、つまりわれわれが第1回演奏会の開幕に胸をふるわせながら演奏した、なつかしいなつかしい曲です。

(1977年6月29日・増上寺ホール・室内楽'70第7回演奏会、プログラムより)

(プロフィール)

3歳の頃からピアノ、ソルフェージュ、作曲を学び、小学校に入った頃から作曲とヴァイオリンを習う。1951年東京大学文学部仏文科に入学。第22回日本音楽コンクール作曲部門第1位。1955年パリ音楽院に留学、アンリ・シャラン、レイモン・ガロワ・モンブランに師事。アンリ・デュティエユの影響も受ける。1957年帰国、東京大学に復学し1960年に卒業。作品は管弦楽、室内楽、歌曲などのほか、多くの合唱曲がある。1974年～95年まで桐朋学園大学学長を務める。1999年12月芸術院会員となり、2001年11月文化功労者に選ばれる。

## 末吉保雄 コレスポンダンスⅢ・Ⅳ…フルート、ヴァイオリンとピアノのために

「室内楽'70」第10回演奏会のための委嘱を受け、1979年、コレスポンダンスⅢを作曲(初演11月12日草月ホール)。その間に、これと対照的な位置関係にあるⅣを着想し、室内楽の連作シリーズ“コレスポンダンス”(同じ編成の対照的2曲の対。演奏順の変換を可能としつつ通奏、あるいは、それぞれ単独に演奏可能)と位置付けた。Ⅲ・Ⅳは1980年3月9日横浜教育文化ホール(横浜教育文化センター主催)「現代日本の室内楽」で、「室内楽'70」が「室内楽'80」と名を改めて、初演した。

(末吉保雄)

(プロフィール)

末吉保雄は、1937年東京生れ。東京芸術大学、パリ・エコールノルマル音楽院卒業。作曲活動の当初から今日まで、声、笛、太鼓のために多くを書き続けている。野口龍は、この間良き理解者として、その数多くの初演、再演を成功させている。

## 池辺晋一郎 トリヴァランス I

1971年の作品。植木三郎、野口龍、若杉弘という当時さんざんお世話になっていた方々のために、興奮して書いた記憶がある。予定調和ではないスリリングなアンサンブルを実現させたかった。「トリヴァランス」(3唄)は、その後クラリネット、チェロ、チェンバロのための「Ⅱ」(73)を書き、そこで途絶えている。そろそろ「Ⅲ」を書いてもいいかと思うこのごろだ。本日の若い3人の演奏家からの刺激を糧に、そこへ向かいたい。(池辺晋一郎)

(プロフィール)

水戸市生まれ。1971年東京芸大大学院修了。66年日本音楽コンクール1位。以後、ザルツブルクTVオペラ祭優秀賞、イタリア放送協会賞3度、尾高賞2度、毎日映画音楽賞3度、日本アカデミー賞優秀音楽賞9度、放送文化賞、紫綬褒章など。作品：交響曲9曲、オペラ10曲他。映画・演劇・放送音楽多数。著書多数。横浜みなとみらいホール館長、東京オペラシティ・ミュージックディレクター、石川県立音楽堂洋楽監督他。東京音楽大学教授。



## 江原大介 ハウリング (委嘱新作)

タイトルを付けてはおりますが、自由に聴いて頂ければと思います。音が独り立ちしていく、しかし根幹から逸脱しない範囲で展開していく、音の構造は規制された中でしか動けない縛りを付けているが、その縛りを解き放つ瞬間を狙いつつ、音が組織の中から離れていく様を思い浮かべた。結果としては統率からの解放を求める音楽となっているのかもしれない。(江原大介)

(プロフィール)

1982年東京生まれ。東京音楽大学作曲科卒業後、桐朋学園大学研究科を経て、東京芸術大学大学院修士課程作曲専攻を修了。第1回全日本吹奏楽連盟作曲コンクール第1位、第77回日本音楽コンクール第2位、他に入選、入賞多数。これまでに作曲を有馬礼子、池辺晋一郎、鞆場富美子、権代敦彦、三瀬和朗、安良岡章夫の各氏に、指揮を汐澤安彦氏に師事。活動はクラシック、吹奏楽、現代音楽からポップスまで幅広く行っている。出版楽譜多数。

## 一柳 慧 トライクローム

「トライクローム」は、1975年1月13日に第一生命ホールにおいて開催された「室内楽'70」の第5回演奏会にて野口龍のフルート、若杉弘の打楽器、一柳慧のピアノ、植木三郎のヴァイオリンによって初演された。「ペンタトニックの音組織で、フルートとヴァイオリンが吹き流す最高音域の帯にピアノが刻みを入れていく」(石田一志)というシンプルな構造の作品であるが、一度だけ鳴らされる銅鑼の音によってクライマックスが形作られている。また、ヴァイオリンとフルートの関係性によって、高い音域における「空間性」が追究されていると一柳は述べている。(文：川崎弘二)

(プロフィール)

10代に二度毎日音楽コンクール(現日本音楽コンクール)作曲部門第1位受賞。19歳で渡米、ニューヨークでジョン・ケージらと実験的音楽活動を展開し、1961年に帰国。偶然性の導入や図形楽譜を用いた作品で、様々な分野に強い影響を与える。これまでに尾高賞を4回、フランス文化勲章、毎日芸術賞、京都音楽大賞、サントリー音楽賞、紫綬褒章、旭日小綬章など受賞多数。作品はオペラ、交響曲、室内楽作品の他、雅楽、声明を中心とした伝統音楽など多岐にわたっており、音楽の空間性を追求した独自の作風による作品を発表し続けている。現在、財団法人神奈川芸術文化財団芸術総監督、アンサンブル「千年の響き」の芸術監督。2008年より文化功労者。

## 肥後一郎 フルートとヴァイオリンとピアノのためのテルツェット

「テルツェット」は、「三重奏」を意味するイタリア語である。ピアノの強打が残す余韻が生む青白い燐光のような弱音の堆積の中から提示されるひとつの唄が全曲を支配する。単一楽章形式であるが、いくつかの異なるシーンの展開の中で、常にこの唄が姿を変えて歌いつがれていく。中間部のフルートとヴァイオリンの二重奏の部分を除いて、新しいシーンの予告は常にピアノ・パートの独奏によって行われる。三つ目のシーンの展開で、それまでは中・高音域の余韻の中でくもるように歌われてきた唄は、跳梁するピアノ・パートの乾いた低音域のリズミクなフィギュアの上でそのデッサンをより明らかにする。高まりのあと、冒頭の弱音の堆積を回想して、息の長い唄がひとしきり歌われる。「室内楽'70」(現「トリオ'80」)の委嘱を受けて昭和52年の11月から53年の7月にかけて書いた。今夕の再演にあたって一部改定した。

(1980年2月21日・第一生命ホール・日本現代音楽協会主催「現代の音楽展'80第4夜・松村禎三制作」プログラムノートより転載)

(プロフィール)

1940年東京生まれ。早稲田大学政経学部卒業。松村禎三氏に師事。日本現代音楽協会会員として、同会主催の演奏会に出品するなどの活動を行った。主要作品に《弦楽四重奏》(1974年)、《ヴァイオリンと管弦楽のための協奏曲》(1977年)、《梵絃詩(邦楽器合奏)》(1980年)、《組歌(十七絃)》(1987年)などがある。

## 小倉朗 フリュート・ヴァイオリン・ピアノのためのコンポジション

松谷翠君を通じてこの曲をたのまれたのは一昨年、つまり1976年。そのころ「日本の耳」<岩波新書>の作文にかかっていたので、作曲に入ったのは77年。「耳——」が出版されたのがその年の五月廿日とあるから、多分六月ごろに五線紙を開いたはずである。そして終わったのが、これははっきり覚えていて八月の末。九月に入るとすぐ、のんびりと上高地に出かけて、桐朋の仲間たちと絵を描いて過した。ところで、出来上がったまま今日まで上演が延びたのは、たしか演奏会場や日時の繰り合わせの都合で、おかげで、その間、二回にわたって訂正を行った。殊に二度目の訂正は演奏会の一週間前というあわただしさで、「70」のグループには忙がしい思いをさせてしまった。曲は全体で四つの楽章から出来ていて、一番はじめの曲は一個のテーマによる構成、二番目は7/8の舞曲風、三番目はイントロダクションで、つづく四番目がアレグロのフーガ。この仕事にかかる前、僕はこの編成を低音のない実に日本的な編成だと思っていた。つまり、構成的にいささか弱く、むしろ表情的、感覚向作品をつくるのに向いている——だが、書いてみると、そういうことは忘れてしまった。とすると、あるいは弱点と見た部分をうまく乗りこせたのだろうか。僕はその点、この初演に興味を持つ。

(1978年7月5日・青山タワーホール・室内楽'70第8回演奏会、プログラムより)

(プロフィール)

1916年北九州に生まれ、生後すぐに東京へ移る。姉の手ほどきでピアノを始め、深井史郎や池内友次郎からフランス近代音楽を学ぶ。その後、ドイツの古典音楽やバルトークの音楽に影響を受けるが、徐々に日本人の持つリズム感や調性感を重視していき、独自の音楽を形成していく。1990年没。教育者としては桐朋学園大学で教鞭を執っており、作品は管弦楽のための作品や室内楽の作品、合唱の作品など多岐に渡り、著作も多い。

# - Profile of Members -

## 野口 龍 のぐちりゅう (フルート)

桐朋学園短期大学音楽科在学中に ABC 交響楽団入団。後に日本フィルハーモニー交響楽団入団。読売日本交響楽団入団。1970 年「室内楽'70」結成。読売日本交響楽団を退団以後、独奏や室内楽に活発な活動を続けている。ことに現代音楽の分野において活躍は目覚しく、その実力は国際的レベルと評価されている。近年では、2002 年より 2006 年まで「日本の室内楽・日本のフルート作品」2 本立てのシリーズを企画、制作。特にシリーズ最後のリサイタルは、深い感銘を与えた演奏会として、各方面から絶賛を呼んだ。現在、桐朋学園芸術短期大学特別招聘教授、上野学園大学客員教授。「東京フルートアンサンブル・アカデミー」メンバー。2002 年第 11 回朝日現代音楽賞受賞。

## 永井由比 ながい ゆい (フルート)

フルートを青木明、野口龍両氏に師事。桐朋学園大学短期大学部卒業、同専攻科、研究生修了。現代音楽コンクール競奏、東京音楽コンクール入賞、入選。これまでに、ISCM 国際現代音楽祭、東京室内歌劇場でのロシア公演、サントリーサマーフェスティバルでの出演など現代音楽分野で活発に活動する他、子供たちへの音楽ワークショップやアウトリーチ活動などもライフワークとしており、これまでに、学校、養護施設などでのアウトリーチ、子供対象のワークショップの公演は 400 回を越えている。(財) 地域創造公共ホール音楽活性化事業登録アーティスト。桐朋学園芸術短期大学常勤講師。ムラマツフルートレッスンセンター講師。

## 三瀬俊吾 みせ しゅんご (ヴァイオリン)

東京音楽大学卒業後、桐朋学園大学院大学修了。第 1 回横浜国際音楽コンクール弦楽器一般部門第 1 位。同コンクールより奨学金を得、パリ・エコール・ノルマル音楽院へ留学。第 6 級研修課程及び室内楽のディプロムを取得。同音楽院にて、ドゥヴィ・エルリ、原田幸一郎の両氏に師事し、マスタークラスや音楽院内での演奏会などに出演。定期的に千々岩英一氏の指導も受け、パリでソロ・室内楽や新作の演奏活動も行う。日本では「第 1 回室内楽—OTO 三瀬俊吾のヴァイオリンとともに」に出演し 7 作品の新作演奏を行う。2010 年帰国。2009 年から毎年、名古屋、神戸、鎌倉、東京などでリサイタル開催。2010 年に、世界中の現代作品を紹介している「mmm...」を結成。2011 年には現代音楽グループ「淡座」を結成し、旗揚げ公演を行うなど、現在はソロや室内楽を中心に活動中。

## 大須賀かおり おおすが かおり (ピアノ)

桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒、同大学アンサンブルディプロマコース修了。第 9 回日本室内楽コンクール第 2 位。2001 年、甲斐史子 (Vn.) とデュオ ROSCO を結成、第 5 回現代音楽演奏コンクール競奏 V 優勝、第 12 回朝日現代音楽賞受賞。2003 年度青山パロックザール賞受賞。2010 年、現代音楽アンサンブル「mmm...」を結成、同アンサンブルによる東日本大震災義援音楽配信プロジェクト「ヒバリ」では世界から 100 人の現代音楽作品を録音、配信した。2012 年、知られざる歌や子供のための歌を紹介する「KOHAKU」、室内楽'70 の全委嘱作品の再演「リレーション'70」を結成。これまでに数々の音楽祭、コンサートに出演し、初演作品は 200 曲を超える。ジパングレーベルより 2 枚の CD、楽譜集をリリース。日仏現代音楽協会会員。

(Website) <http://kaoriohsuga.com>



# リレーション'70 第3回演奏会

2014年6月27日(金) 19時開演

東京オペラシティ・リサイタルホール

# NEXT '70

- 予定曲目 -

廣瀬量平 / フルートとヴァイオリンとピアノのためのピエタ

野田暉行 / バラード

渡辺俊哉 / 委嘱新作

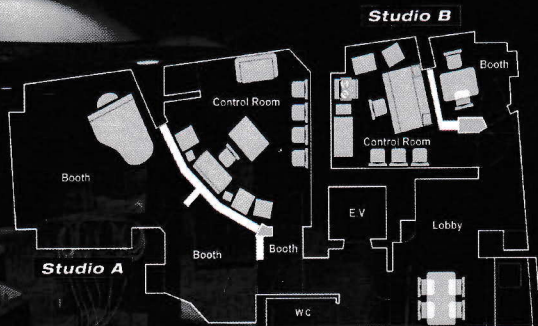
柴田南雄 / トリムルティ

八村義夫 / エリキサ

入野義朗 / HRSのためのトリオ

GENONSHA  
**Studio 246**  
RECORDING STUDIO, AOYAMA, GAIEN-MAE

バンドのレコーディング  
リズムセクションの一斉録り  
各種ソロ楽器のダビング  
映像のナレーションダビング  
副音声のMA作業  
各種ナレーション収録  
etc...



## Studio A (20m<sup>2</sup> + 7m<sup>2</sup> + 2m<sup>2</sup>)

### Basic Price

1hr ¥12,000

Engineer fee (1hr) ¥4,000

### Package Price

3hr package (engineer 無し) ¥30,000

3hr package (engineer 付き) ¥40,000

10hr package (Lockout) (engineer 無し) ¥80,000

10hr package (Lockout) (engineer 付き) ¥100,000

## Studio B (14m<sup>2</sup>)

### Basic Price

1hr ¥8,000

Engineer fee (1hr) ¥4,000

### Package Price

3hr package (engineer 無し) ¥20,000

3hr package (engineer 付き) ¥30,000

[www.genonsha.co.jp](http://www.genonsha.co.jp)